



ココロもカラダも
踊るような楽しいまちに!
下馬のごちやませ祭り



1月19日(日)、下馬公民館と隣接する西ノ入公園で開催された市民発のイベント「ゲバサンバ」。打楽器のワークショップ、鼓笛隊やマジックのステージ、カレーやクレープといった飲食ブース、縁日やプレーパークなど、地域の住民を中心に1,000人を超える来場者が楽しみながら交流しました。

市民活動団体KuuUFuUUで活動する実行委員長の小野寺香那恵さんが立ち上げたこのイベント。きっかけは、仕事と育児の両立の難しさ、公園で遊べないなどの子どもの体験機会の減少といった子育て世代が置かれた状況への不安。自分が経験した困りごとを次世代に引き継ぎたくない。子育てがしたくなるまちにしたい。そう考え、まずは自分ができる範囲、地元の下馬地区でみんながまちづくりに関われるイベントを開催する構想を温めてきました。子育て世代だからこその子どもたちと世代をこえた関わりも思い描きながら企画しました。

KuuUFuUUの活動などを中心に自身の想いを発信し続け、さまざまな立場の人たちが小野寺さんの地域を大切にしたいという想いに共感。協力を得たことで「ゲバサンバ」が実現しました。例えば、商店街はポスターの掲示、子育て世代は学校へのチラシ配布をお願いするなど広報を担当。地元企業から提供された商品はくじ引きの景品に。12人の実行委員、約30人のボランティアも一緒にイベントを盛り上げました。

「他の団体と連携したり、いろいろな形での開催を検討しながら続けて行きたい。いずれは下馬地区の国道45号を練り歩くパレードをやるのが目標」という小野寺さん。「関わっている人がアイデアを実現したりチャレンジすることができて、それぞれが輝ける場になれば」。小野寺さんの想いがひとつ実を結んだ「ゲバサンバ」。今後の展開も楽しみです。



ホームページ



写真提供：小野寺さん

参加者の感想

来場者

地元のまちがこんなに
にぎわっているのがうれしい

ボランティア

こんなにたくさんの世代を
超えた人たちが集まるイベントを
実現できたことがすごい



来場者

初めて会った人が
マシュマロの焼き方を教えてくれた。
イベントならではの話しやすさがありますね

ゲバサンバの軌跡

KuuUFuUU主催のイベントや、ゲバサンバのプレイイベントを行うことで、ゲバサンバを盛り上げる仲間を増やしていきました。



2024/11/30
ゲバサンバ 練り歩きイベント
ゴミ拾いを行いながら、
下馬地区を練り歩きました。
(写真提供：小野寺さん)

2024/12/14
プレイイベント Hi-hinワークショップ
ペットボトルなどの廃品を使用した
楽器をつくるワークショップを行いました。



イベント開始前
実行委員やボランティアと円陣を組む小野寺さん(中央)



不登校の子どもたちが安心して過ごせる場所を

文部科学省が毎年行っている調査で、宮城県内の小中学校における不登校児童生徒数の割合が令和5年度には全国最多になっています。今回、不登校の子どもと保護者の相談を受ける活動をしているここえなの郡司宏貴さん、多賀城市内で不登校のサポートをするNPO法人アスイクの福富優さんと一般社団法人manacoの中野柗一郎さんの3人から、不登校の現状や課題についてお話を聞きました。

一人ひとりに寄り添ったサポートを

多賀城市においても不登校の児童生徒数が増加傾向にあり、小学生の人数が令和5年度は令和4年度の2.2倍に増えています(下記グラフ参照)。その理由について「このまま学校に行ったら自分が壊れてしまうと本能的に感じて選んだ行動ではないか。子どもの数だけ理由はある」と郡司さんは見えています。福富さんは「一人ひとりの置かれた環境や状況に応じた関わり方が必要」と話します。

多賀城市では、登校に不安を持つ児童生徒のための「学び支援教室」は、宮城県内に40校あるうちの4校が設置されています。また、民間と協働で行っている取り組みは、学校外の施設として、たがじょう子どもの心のケアハウスを開設し、NPO法人アスイクに運営を委託しています。また、オンラインと対面での子どもたちの居場所づくりを行っている一般社団法人manacoと連携協定を結んでいます。他にも支援をしている個人や団体がいくつかあります。

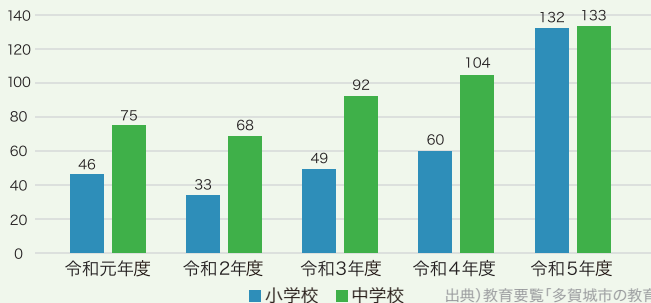
不登校への理解を広めたい

不登校についてニュースや報道で取り上げられる機会は増えてきましたが、正しい理解がまだまだされていないのが現状です。「不登校は問題行動ではない」と文部科学省は定義しています。中野さんは「学校に行っていないからかわいそう」ではないということを知ってほしいと話します。

「子どもが充実して過ごせる環境があれば、その場所でさまざまな活動をし、人との関わりを積み重ねることで少しずつ世界が広がる」と福富さん。「自分を肯定する力を養うことで次につながる。身近な大人が焦らずに次のステップへ誘導できればいい」と郡司さんはアドバイスします。また、中野さんは自身の楽しかった体験を話すことで、子どもたちに外の世界への興味を広げています。

不登校の支援には地域の声掛けや見守り、居場所づくりといった家や学校以外の第3の場所での交流が求められます。理解し寄り添う人が増え、情報が必要な人へ届くようなサポートの輪が広がることが大切です。

市立小中学校児童生徒の不登校・不登校傾向状況(単位:人)



↑多賀城市立の小中学校児童生徒数の増減に変化はほとんどありませんが、不登校数は年々増加傾向にあります。

※「不登校」とは、病気や経済的な理由を除いて年間30日以上学校を休んでいること。「不登校傾向」は不登校に至らなくても、登校するが教室に入ることができなかったり、遅刻・早退が多いなど、学校に行きたくない気持ちを抱えている状態のこと。



↑左から郡司さん、福富さん、中野さん



NPO法人
アスイク



たがじょう子どもの
心のケアハウス



一般社団法人
manaco

知っておきたい「不登校」に関する法律と方針(文部科学省ホームページ)



教育機会確保法

不登校の子どもたちに対する支援や夜間中学における就学の機会の提供等を規定している法律です。



COCOLOプラン

不登校児童生徒一人ひとりの学びの場を保障するための取り組みをまとめています。

「tag」とは

「tag」には、多賀城(tagajo)」の頭文字3文字、みんながタグを組んで地域をつくる、多賀城に新しいタグ(価値)をつける、という意味が込められています。



ホームページ



ブログ

アンケート

誌面づくりの参考にしたいと思いますので、ぜひご協力をお願いします!



- ・自分たちの団体を取材してほしい
- ・こんな話題を取り上げてほしい
- ・ユニークな活動や地域のために頑張っている団体・人を知っている